

火山ハザードマップについて

町は、令和元年6月3日に、十和田火山の火山災害警戒地域に指定されました。
 火山災害警戒地域とは、火山が爆発した場合に、住民等の生命又は身体に被害が生ずるおそれがあり、被害防止のため、警戒避難体制を特に整備すべき地域として、国が指定するものです。

【火山の噴火の種類】

【噴火により起こる現象】

水蒸気噴火

地表近くにある地下水がマグマからの熱で温められて水蒸気となり、その圧力で一気に爆発する現象です。

マグマ片を含まない火山灰
 地下水
 沸騰
 熱
 マグマ

大きな噴石

爆発的な噴火によって火口から吹き飛ばされる直径概ね20~30cm以上の大きな岩石は、風の影響をほとんど受けずに火口から弾道を描いて短時間で落下し、建物屋根を打ち破るほどの破壊力を持っています。

火砕流・火砕サージ

高温の火山灰や岩塊、空気や水蒸気が一体となって急速に山体を流下する現象を火砕流といいます。中でもガス成分が多く、土石含有率の低い高度かつ希薄な流れを火砕サージと呼びます。破壊力が大きく極めて恐ろしい火山現象です。

マグマ水蒸気噴火

上昇してきたマグマが地下水にふれて水蒸気とともに噴出する現象です。

マグマ片を含む火山灰
 地下水
 沸騰
 接触
 マグマ

降下火砕物

噴火による直径2mm以上の固形物を小さな噴石(火山れき)、直径2mm未満のものを火山灰といい、総称して、降下火砕物といいます。粒径が小さいほど遠くまで風に流され降下し、社会生活に深刻な影響を及ぼすことがあります。

溶岩流・溶岩ドーム

噴出したマグマが流下する現象を溶岩流といいます。そのうち、マグマが火口上に盛り上がったものを溶岩ドームと呼びます。溶岩ドームが熱いまま崩壊すると、火砕流が発生することがあります。

マグマ噴火

地下から上昇してきたマグマが地表に噴き出す現象です。

マグマ自体が噴出
 上昇
 マグマ

降灰後の土石流

火山噴火により噴出された岩石や火山灰が堆積しているところに大雨が降ると土石流や泥流が発生しやすくなります。これらの土石流や泥流は、高速で斜面を流れ下り、下流に大きな被害をもたらします。

融雪型火山泥流

積雪期の噴火に伴う火砕流等の熱によって斜面の雪が融かされ大量の水が発生し、周辺の土砂や岩石を巻き込みながら高速で流下する現象です。流下速度は時速数十kmに達することがあり、大規模な災害を引き起こしやすい火山現象です。

【十和田火山の融雪型火山泥流】

町に最も影響があると考えられる噴火現象が、十和田火山の融雪型火山泥流です。積雪期、融雪期に噴火し、大規模火砕流が発生すると、発生後3~6時間で、奥入瀬川に沿って泥流が流下してくる可能性があります。
 下図および37ページのハザード情報は、実績積雪データと西暦915年噴火時の毛馬内火砕流の到達範囲を参考に、2年に1度程度の最大積雪深時に泥流が発生する場合を想定したものです。



十和田火山防災協議会「十和田火山災害想定影響範囲図」より抜粋

ため池・火山